

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大牟田市立 倉永小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	21
児童数	52	46	49	49	57	54	0	307	

研究の概要

1. 研究主題

<p>確かな学力を身に付け、わかる喜びを味わう学習指導                  社会科・算数科における補足的・発展的な学習の工夫を通して                  (1年次)</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1年生・2年生 算数                  基礎学力を定着させるための重要学年であるため。</p> <p>3年生・4年生 社会                  社会的事象を的確に調べたり、調査したりするための基礎学力を身につける学年であるため。</p> <p>5年生・6年生 算数                  児童の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ                  子どもにわかる喜びを味わわせ、確かな学力を身に付けるさせるために、子どもの理解や習熟の程度に応じた指導の在り方を究明する。</p> <p>研究の見通し                  子どもに身に付けさせたい基礎、基本を明らかにし、子どもの実態と単元の特性に応じた補足的・発展的な学習の工夫を行えば、子どもたちは、課題解決に向けて、意欲的に取り組み、わかる喜びを味わい、確かな学力を身に付けさせることが期待できる。</p> <p>研究の内容                  ・補足的な学習、発展的な学習など個に応じた指導のための教材を開発する。                  ・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善をする。                  ・補足的な学習や発展的な学習を効果的に行うための評価の工夫をする。</p> <p>研究の方法                  子どもの実態や学習状況を把握する。</p>
--------	---

「知識や技能」の習熟の程度、「問題解決能力」の習熟の程度、「関心・意欲・態度」の程度の3つの観点で、補充的な学習・発展的な学習に分かれて、個に応じた指導を行う。その際、A B Cの基本的な単元の指導タイプを設定する。

教材開発の工夫は、補充的な学習では、体験的活動や具体的操作を、また、発展的な学習では、自ら工夫する活動を採用するようにする。

指導体制の工夫として、T・Tを組んでの指導、グループ別指導、個別指導、少人数指導に取り組み指導の効果を高める。

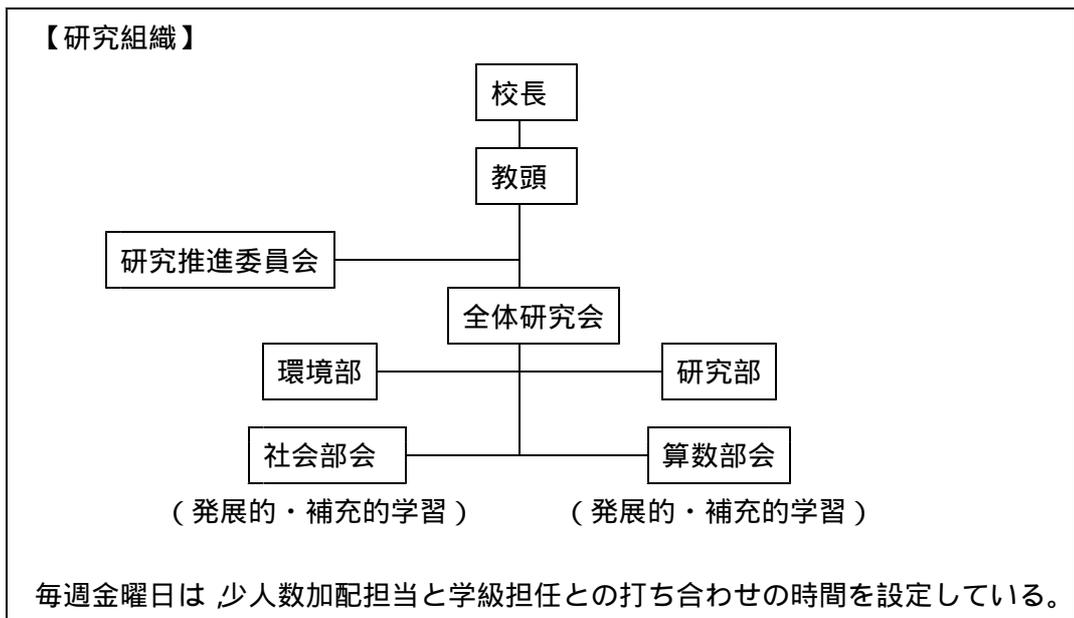
平成16年度

テーマ 確かな学力を身につけ、わかる喜びを味わう学習指導  
—評価を生かした指導方法の工夫を通して—

研究の見通し  
15年度の実績を踏まえ、主に、子どもの学力の評価を生かした指導の改善に研究の重点をおく。

研究の内容・方法  
効果的な評価規準の作成  
評価に基づく指導方法・指導体制の工夫

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

7月と12月に社会科と算数科において、同じ内容で子どもへのアンケートを実施した。その結果を比較してみると、算数(1・2・5・6年生対象)社会(3・4年生対象)の学習を楽しみと感じた子どもが、7月は73%であったが、12月は82%に変容した。個に応じた指導や教材開発の工夫がこの伸びを支えた。また、コース別の学習は、分かりやすいと答えている子どもが89%いた。その理由として、

- 自分のペースでできるから。
- 自分の実力に合わせてもらえるから。
- 自分で問題を選べるから。
- 分からないことがあったら、まず、そこから学習できるから。

などを挙げていた。子どもの実態を把握した上で、コース別の指導方法を行い、個に応じた指導を行った成果と考える。

形成的評価，自己評価などにより子どものつまずきがよく見えるようになった。補充と発展に分けることで，B規準に到達していない子どもたちが，周りの速いペースを気にすることなく学習できる。また，その子どもたちに対する支援もより細かくできるようになった。これまでは学習を早く終えた子どもを待たせていたことが多かったが，理解の速い子どもも，次への問題に意欲的に取り組むことができた。ガイダンスを丁寧に行えば，分かれて学習することへの抵抗はないことがわかった。

2. 今後の課題

担任一人で補充と発展をしていく場合，どうしても補充の方につくことが多く発展の方の支援が不十分となるので，人的配慮も含め，さらに教材や指導形態の工夫が必要になる。自己評価カードに観点別の考えをもりこんだり，補助簿の活用を図ったりするなどの評価の工夫。各種の評価で得られた子どもたちの観点別の習熟の程度とそれを補充・発展させる観点別の教材開発。

学力等把握のための学校としての取組

学力調査標準診断全国学力検査（国語・社会・算数・理科の4教科）により，子どもの学習状況の把握と実態分析を行った。（3年・5年実施）分析は3観点に分けて行い，考察をした。

子どもの算数と社会に対する，関心・意欲・態度を把握するために7月と12月に同じ内容でアンケート調査を行った。（1・2・5・6年は算数，3・4年は社会）その変容を考察した。

単元計画に，診断的評価，形成的評価，総括的評価，自己評価を位置付け子どもの学習状況を的確に把握し，効果的な学習を行った。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

鹿児島県始良郡霧島町の教頭先生方に本校の研究構想と研究の成果と課題の説明を行った。

パンフレットの作成

大牟田市立銀水小学校の学力向上研修会へフロンティアティーチャーとして出席

次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校     14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                     7～12学級  
                                13～18学級                 19～24学級  
                                25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                     T・Tによる指導  
                                一部教科担任制             その他
- 【研究教科】             国語                     社会                     算数                     理科  
                                生活                     音楽                     図画工作             家庭  
                                体育                     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】                          無